

第 52 回 防災カフェ（Web）を開催しました。

びわコミ会議 2020 コラボ企画



びわ湖と豪雨災害

～ハザードマップをみてみよう～

ゲスト：山田 千尋 さん

（滋賀県 土木交通部 流域政策局 流域治水政策室 主幹）

日時：2020年11月19日（木）18時～20時

ファシリテーター：一伊達 哲 さん

（滋賀県 琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課 主幹）

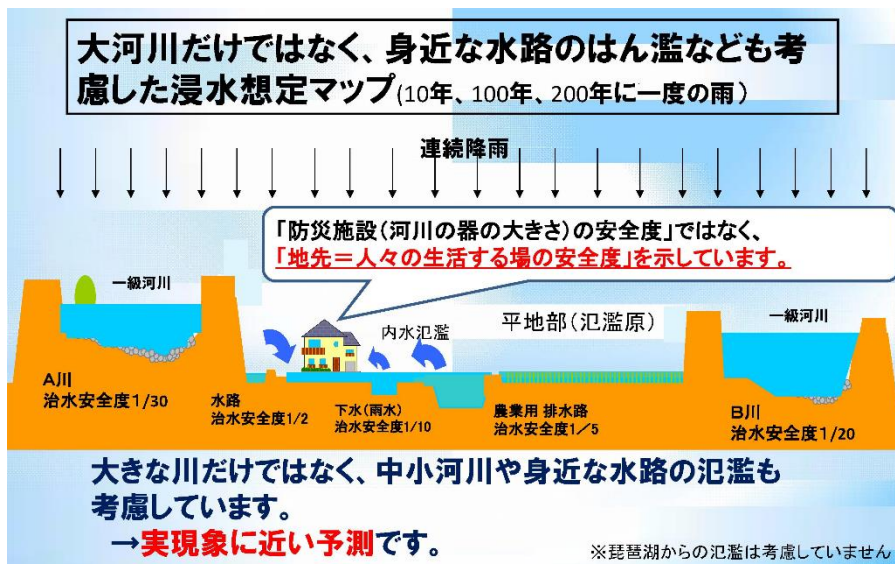
多発する大雨による水害・土砂災害、滋賀県に住む私たちにとっても他人事ではありません。私たちは、これまでも琵琶湖から受ける恩恵とともに、水害などに怯えながら暮らしてきました。これからも母なる湖と上手に付き合うために、よりよい豪雨災害対策について一緒に考えました。



ゲスト：山田 千尋 さん

豪雨災害から命を守るために、まず、自宅や大切な人のいるところの「水害・土砂災害リスクを知る」ことが重要です。被災された方から「今まで長く住んでいて初めてこんな被害に遭った」という話を聞きますが、倉敷市真備町でも、熊本県の球磨川でも自治体がつけていた水害ハザードマップの想定とほぼ同じような範囲で浸水が起きています。土地の高さや地形の状況によって水害リスクは把握することができます。滋賀県に平成 25 年 9 月のような大雨が降ると、大雨の最中に街中の水路や小河川が氾濫し、その後、中大河川が氾濫します。さらに、大雨の約一日後に琵琶湖の水位がピークを迎え琵琶湖辺域で浸水が起きます。それぞれの浸水発生には時間的なずれはあるので、大雨が止んでも油断はできません。

滋賀県では、『地先の安全度マップ』という小河川や水路のはん濫も考慮した水害リスクマップを全国に先駆けて公表しており、どこでどのくらいの深さの浸水が発生する可能性



地先の安全度マップ

があるかを確認することができます。『地先の安全度マップ』は、10年確率（最大雨量 50mm/時間、総雨量 170mm/24 時間）、100年確率（最大雨量 109mm/時間、総雨量 529mm/24 時間）、200年確率（最大雨量 131mm/時間、総雨量 634mm/24

時間）の雨を想定した 3 種類があります。『滋賀県防災情報マップ』では、『地先の安全度マップ』と土砂災害のリスクを重ねて表示することができます。また、これらを元に、各市町でハザードマップを作って全戸に配布しています。

実際に、HP で参加者の皆さんが自宅等の水害・土砂災害リスクを『滋賀県防災情報マップ』で調べました。

【調べ方】滋賀県の HP→防災・災害情報(右上の黄色いタイル)→防災情報マップ(ハザードマップ)→防災情報マップのトップページが表示されます。[水害・土砂災害リスクマップ] を選び、調べたいところを拡大していくと、200 年確率降雨で想定浸水深が 50 cm 単位で色分け(凡例で色分けを説明)されています。山や斜面の近くでは土砂災害警戒区域が黄色で、土砂災害特別警戒区域が赤で表示されます。100 年確率や 10 年確率の『地先の安全度マップ』も凡例のチェック欄を変えることで見るすることができます。

一般に浸水しやすいところは地形に特徴があります。干拓地（内湖の水を抜いて農地にしたところ）や、JR の線路など上流側（盛土上流で降った雨が琵琶湖側へ流れずに溜まるため）、狭窄部の上流（川の両側の山が近いことから水が流れにくくなるため）、支川の合流地点で川と川にはさまれた場所などで、浸水しやすいことがわかります。『滋賀県防災情報マップ』の凡例にある「浸水深詳細」の□欄を選ぶと、50m 四方の格子と 3 段の数字(下から地盤高、想定水位、想定浸水深)が出てきます。これは住宅などを建築する際、床上浸水を避けるため、1 階の床面高の設定で参考にするなど、水害に強い住まい方に活用することができます。

滋賀県ではどのような洪水の時でも県民の命を守るために4つの取り組みをしているということでした。それは、「ながす」(河川改修工事や維持管理を着実に進める)「そなえる」(リスク周知や避難体制整備を地域の人たちと一緒に実施する)「ためる」(雨水を一気に流さずに貯留する)「とどめる」(住宅の嵩上げなどをして水害に遭っても命を失わないようにするなど)です。

その中で、「そなえる(避難)」に関係したことを詳しく聴きました。以前は、『避難=指定された避難所に移動(水平避難)』ということでしたが、最近は、避難経路が危険な場合は水平避難ではなく、自宅などの2階への避難(垂直避難)も避難の一つになってきています。普段から水害・土砂災害リスクを知り、避難について考えておくことが大切だということでした。



ファシリテーター：一伊達 哲 さん

避難開始については、市町から水害・土砂災害の防災情報が出ます。5段階の警戒レベルの3で高齢者や要支援者など避難に時間のかかる方は避難を開始、レベル4で全員避難となっています。レベルに関わらず近くの目印になる所が浸水したら避難開始のように自分なりの目安をつくっておくのも一つの方法です。

避難のとき、浸水している道路を通らない、危ないところには近寄らないことです。水深50cmでも流れがあると歩行が困難です。流れがなくても、濁水では水路や蓋のないマンホールがどこにあるかわかりません。自動車は、水深が30cm以上で排気口に水が入るとエンジンが停止してしまい、より深くなると窓もドアも開かずに車に閉じ込められる恐れもあります。

雨が激しくなってからでもネットで河川の状況を見ることができます。直接見に出かけて、多くの命が失われていますので、ぜひネットでの情報等を活用しましょう。滋賀県土木防災情報システムで近くの川の水位や雨量を知ることができます。また、滋賀県河川防災カメラでは主な河川の様子を昼夜を問わず見ることができます。さらに「しらがメール」、「しらがLINE」を利用すると必要に応じて様々な防災・防犯情報等が送られてきます。他にもNHK、yahooなどのスマホアプリで提供される防災情報を取得することもできます。

山田さんが所属する県庁流域治水政策室では、水害出前講座を年間 50 回ほどしていて、参加者から「こんなに怖いことになっているんやったら、知らん方がよかった」といわれることがあるそうです。でも、決してそうではなく、かけがえのない命を守るために水害のリスクを正しく知って正しく備えることが大切だと伝えているそうです。水害出前講座は「場所や規模の大小にかかわらず、依頼があればどこへでも行く」ということをモットーに、内容も形も希望に沿うようにできるので、気軽に連絡してほしいとのことでした。



いつでもどんなことでも
お気軽にご相談ください。



流域治水政策室公認キャラクター

滋賀県 土木交通部

流域政策局

流域治水政策室

Tel: 077-528-4291, 4293

最後に、「びわコミ会議」恒例の参加者の全員が「びわ湖との約束」を書いて交流しました。



「びわ湖との約束」をもって記念撮影

参加者の皆さんから、多くの質問が出ました。その一つを紹介します。

問：土砂災害についてはどんな雨を想定されているのですか？

答：土砂災害警戒区域は、雨量で何年確率ということではなくて、崖であれば角度が 30°で、高さが 5m 以上であれば、土砂災害のリスクが他の所よりも高いということで指定しています。住宅地の開発が進んで、地形条件が変わってきているので、毎年更新しています。

会場から砂防課 土砂災害防止係の北川 晴彦さんに答えていただきました。

山田さん、一伊達さん、参加者の皆さんありがとうございました。